



## 日本の労働市場の理解を目指して

一橋大学大学院経済学研究科教授 川口 大司

予想外の受賞に驚き、とてもうれしく思っている。博士号取得以来 14 年の期間にわたって労働市場を中心とした日本経済の実証研究を行い、国際査読誌への公表を心がけてきたが、その積み重ねを評価していただけたのかもしれない。

労働経済学の実証研究は 1990 年代に大きく変化した。モデルを精緻化すれば、私たちの経済社会構造についての理解が深まっていくだろうという考えを見直し、データから因果関係を慎重に読み解こうとする流れが生まれた。私の一連の研究はこの流れに従い、日本の社会経済構造を描こうとする研究である。主要な関心は経済格差の発生メカニズムの解明にあり、学力差の発生原因を探ったり、賃金差を学歴差、雇用形態差、性差に求めたりしてきた。また、信頼における因果推論を行うため、自然実験を用いた研究も行ってきた。例えば、1969 年の東大入試の中止を題材に労働市場における学歴の役割に関する分析や、2007 年の建築士による構造計算書偽造事件を題材に建築士の労働市場に関する分析を行った。これらの研究は経済分析のフレームワークと事件の歴史的な背景や制度に関する知識を融合して行われたもので、経済学の数理的側面よりも社会科学的側面に関心を持ちながら研究を進めてきた私にとっては、とくに印象に残る研究となった。

現実の政策にも関心を持ち、最低賃金の引き上げが雇用に与える影響を分析したり、法介入が労働市場に与える影響を労働法学者と考えたりもしてきた。政策研究を行うに当たっては研究者としての独立した立場で学術的成果を出すことを重視してきた。

日本経済を題材にした論文を国際査読誌に出版することは険しい道だが、多くの方に支えていただいた。とくに共同研究者と国際査読誌への公表を評価基準とするぶれない同僚に恵まれたことを深く感謝したい。

かわぐち だいじ

1994 年早稲田大学卒業。2002 年ミシガン州立大学大学院経済学研究科 Ph. D. コース修了。Ph. D. (経済学) 取得。一橋大学大学院経済学研究科准教授などを経て、2013 年から同教授。主な著書・論文に『日本の外国人労働力』(共著、日本経済新聞出版社：第 52 回日経・経済図書文化賞受賞)、『Human Capital Accumulation of Self-Employed and Salaried Workers』(Labour Economics) などがある。1971 年東京都生まれ。